

## はじめに

岐阜県においては平成 23 年 12 月末の外国人登録者数が約 4 万 8 千 500 人と県人口の 2.3 パーセントを占めています。県内外国人登録者数は平成 20 年 11 月の 5 万 7 千 656 人をピークに減少しておりますが、外国人住民の多くは、地域社会の構成員として共に生きていく定住化の傾向が見られ、教育、就労等様々な課題に直面しております。

とりわけ、日本語でのコミュニケーションに不安を抱えた外国人住民が、医療機関等を受診する際には、語学・精神面での支援が求められております。

そのため、財団法人岐阜県国際交流センターでは、医療機関で外国人住民をサポートする医療通訳者の育成を図るため、平成 18 年度より、先進的に医療通訳事業に取り組んでいる特定非営利活動法人多言語社会リソースかながわ（M I C かながわ）や特定非営利活動法人多文化共生センターきょうとより講師を招き、ポルトガル語を対象とした「医療通訳サポーター研修」を実施してきました。

平成 22 年度においては、近年需要が高まっている中国語、タガログ語を新たに対象言語に加えるとともに、岐阜大学大学院医学系研究科・医学部のご配慮により、今後の医療通訳の広がりにも期待をし、現場により近い形での医療通訳のトレーニングを目指した、充実した医療通訳サポーター研修を実施することができました。

本年度の研修で使用した、医療通訳トレーニングのシナリオは、岐阜大学大学院医学系研究科の高橋優三教授の格別なるご協力を頂き、岐阜大学大学院医学系研究科・医学部、M I C かながわ、当センターの 3 機関共同で作成したところ、受講者の皆様より好評を得たところです。

そこで、今般、上記研修で使用したシナリオ、医療に関する日本語表現等に、先進的な取り組みを行っている機関の医療通訳に関する役立つ情報などを、関係機関のご協力を得て加筆し、冊子として取り纏めることにしました。

本冊子が、医療通訳者の育成及びサポート体制の整備に寄与することを期待し、皆様のお役に立てば幸いに存じます。

平成 23 年 3 月

財団法人岐阜県国際交流センター